

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790800082		
法人名	合資会社あんど		
事業所名	グループホーム浦西		
所在地	沖縄県浦添市当山2-10-10		
自己評価作成日	平成24年11月20日	評価結果市町村受理日	平成25年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=4790800082-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成24年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年真和志高校の福祉課の実習生を受け入れている(年2回)。一年生15歳から三年生17歳の高校生とのかかわりによって、入居者の表情が豊かになっていることが伺える。受け入れ当初は、職員の介護技術の低さや対応などの問題点などがあったが、実習生を受け入れることにより、学習会や研修会を重ねることにより、スキルアップにつながった。家族や医療機関や行政機関との信頼関係の構築が図られている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所所在地は行政の連携協力もあり、特に校区内保健センターとは行事等を通し地域を巻き込んで福祉の啓蒙に取組んでいる。入居者個別の支援を重視し、下肢筋力アップは生活リハビリと称して階段の昇降、調理や食器洗い、地域の清掃活動等への参加の機会も増やしている。食事は事業所内で3食調理し、料理大好きな入居者も一役を担い、職員と協働している。また、入居者は職員と掃除や調理を介して共通の話題でコミュニケーションを増やし、一人ひとりが役割を認識して活動の範囲を広げている。各居室にトイレを設けているので、共用空間の広さは限られているが、食事以外の調理の下ごしらえ、展示作品の準備の他、ボランティアとの楽器を使用した歌の共演等でも活用され、その時々アットホームな雰囲気全員で造りだしている。今後に向けて取組みは山積しているが、管理者を先頭に職員が一つひとつ真摯に向きあい、事業所の特徴を活かした取組みに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の向かいの方が今年からはじめて推進会議に参加するようになった。避難訓練も参加の予定。	理念は、「入居者が地域との関わりを深め共に暮らせる環境で、職員は入居者の人生観に学び一人ひとりのペースに合わせて一緒に活動する。」としている。毎朝のミーティングで唱和する他、職員全体会議で「主役は入居者」と常に理念に基づき行動する事を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が毎週水曜日に歌のボランティアを継続している。	地域の子ども達が参加する夏と冬の恒例の行事の他、近隣学校周辺の清掃や「わくわく農園」の手入れを入居者と一緒に取り組んでいる。隣の畑の所有者から野菜等が届き、天ぷらでお返しする等で、顔と顔を合わせる交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者2名と職員、地域の方10名で裏西中学校正門前の清掃活動をおこなった。翌週からPTAが活動を始めたとのこと。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には毎回、入居者および勤務職員全員参加している。そのつど利用者の活動報告をしている。	運営推進会議は入居者や家族、地域代表や行政職員が参加して定期に開催している。会議では、運営等の定例報告や災害対策、外部評価結果等への取組みも紹介している。委員から地域貢献について問われたことが、近隣学校周辺の清掃活動に取組みきっかけとなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例と思われる利用者の状況を介護保険課、生活保護課の担当と日々相談しながらケアを行いアドバイスをもらったりしている。	行政主催の介護週間への参加と、2か月に1回市内グループホーム連絡会への出席を継続している。困難事例等に関係する課と連携し、事例に応じて内容の検討にも取り組んでいる。入居者も同行する窓口での更新手続きは継続している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関先の施錠は日中はまったくない。車椅子からの転倒防止の拘束帯(家族了承の元)をしているが、本人からの訴えがあれば取り外し見守りしている。	事業所として「身体拘束排除宣言」を掲示し、対応マニュアルを整備して家族等へは入居契約時や面会時等で説明して理解を得ている。また、事業所2階から階下への施錠等はない。家族了承の下で転倒防止の事由で行動を制限しているが、経過観察記録等が整備されていない。	身体拘束が禁止事項である事と、三つの要件について職員間で再確認する等、身体拘束をせずに行うケアへの取組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	困難事例と思われる入居者とのかかわりについて、職員が疲弊し、虐待に繋がらないように配慮しつつ、職員がチームになって取り組んでいる。		

沖縄県(グループホーム浦西)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に繋ぐケースはないがパンフレットを用い勉強会をおこなった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約書説明、ケアプランの説明時においての信頼関係の構築に配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に、ご意見箱を設置して自由に投書ができるようにしている。家族が気軽に要望が言えるように日頃から家族と職員の敷居を作らないように配慮している。	入居者は直に職員に伝え、家族は運営推進会議や面会時等で意見や要望を表出している。例えば、入居者の要望で座席の配置換えを、家族の意見で、受診時は病院で待合せる等に対応している。また、入居者が孫が通う保育園の訪問を切望している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の会話やミーティングで、不満や苦情、意見や提案を聞くように努めている。	職員は、毎朝のミーティングや全体会議で意見や提案を表出している。入居者の薬の飲み忘れへの対策を検討し、服薬管理の方法を決めて、全職員で周知徹底に取り組んでいる。また、日中の業務での気付きは、その場で職員間で話し合い改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員の意見を真摯に受け止め、現場の環境が向上するように意見を聞いてくれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員の力量を見極め必要に応じ研修の派遣の検討に応じてくれる。		
14		代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会や浦添市グループホーム連絡会へ積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初の信頼関係構築がとても重要だと考えている。入居時の不安や戸惑いなどを理解しなるべく一人の時間をなくすように最大限の努力を初期におこなうようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期における家族の不安や要望などをききとり、安心してもらえるように、気持ちに寄り添うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の段階で入居者が落ち着かない場合などは家族の宿泊ができる旨を伝えたと安心される。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者ができること、茶碗洗い、調理、野菜の選別、包丁研ぎなど、できるだけ一緒におこなうようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の生活の様子やドライブでの写真をその場でメールで送付したり、日頃から家族と信頼関係が築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なかなか会いにこれない家族に会いに行ったり、住み慣れた場所やふるさと訪問を継続している。	入居者のアセスメントで情報を把握し、生活環境や職歴を個別支援に活かしている。例えば、家族との外出時に美容室や買物を、ボランティアを兼ねた甥っ子の訪問の受入、元の職場近くへドライブや入居者の出身地訪問等を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相撲観戦が好きな入居者の部屋にテレビがあり、向かいに座っている相撲が好きな利用者からは部屋を訪ねて一緒に相撲観戦をしていたり、隣同士の入居者同士が会話がはずんでいたりする。		

沖縄県(グループホーム浦西)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	2年目に在宅復帰のため退所された(退所後に亡くなった)方の家族との関係が現在も継続している。地域支援や家族支援を今後もおこないたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	歌うことの嫌いな入居者へは部屋へ戻ることや、集団レクが嫌いな入居者の意向に添い部屋で過ごすこと、喫煙場を設け自由に喫煙ができるなど本位に対応している。	入居者の個別情報は日々の活動に反映し、調理や食器洗い、農園の手入れ等の参加に繋げている。入居者の意向に沿い、レク活動や体操は意思を確認して支援し、時には、散歩や外出で気分転換も図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	料理の大好きな方、国会中継がすきな方、エイサーを見るのが好きな方、沖縄芝居が好きな方、今までの生活が社会に馴染まなかった方など、なるべく詳細に情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	下肢筋力低下防止のため階段を利用するの毎日のごみ捨てを3年間継続している。調理や調理の手伝い、茶碗洗いなど、個々に支援をしている。若い頃に琉舞を踊っていた方が敬老会に職員と一緒に披露した。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議をその都度行い、サービスの変更をおこなっているものの、計画書を変更するまでにはまだ至っていない。昨年にひきつづき課題である。	介護計画は、入居者や家族が参加する担当者会議やモニタリング等を実施し作成している。個別の計画で、下肢筋力低下を課題とした筋力アップに取組み、入居者の生活活動の範囲を広げている。計画に沿ってサービスは実施しているが、実施内容は一部のみの記録となっている。	計画に沿って実施しているサービス内容が確認できるよう、記録の整備に取組んでほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の個々の能力を把握し生活の中で役割とし意欲に繋がるように支援している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族がなかなか行けない不定期の病院受診(眼科、皮膚科、耳鼻科)同行や、不穏時における外出などおこなっている。		

沖縄県(グループホーム浦西)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	わくわく農園への参加の継続。今年3月の町興し行事の「ハッピーガーデン」への参加、今後も積極的に参加を継続する。向かいに住む方が運営推進会議に参加してくださった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	外来受診2名(月1回)、訪問診療7名(月2回)、主治医、医療機関との相談などができる。	定期受診や他科受診(皮膚科、眼科等)は家族対応を基本とし、家族の希望や入居者の状態に応じて職員が送迎や付き添いの支援をしている。定期受診の前日にFAXにて情報提供し、受診後は文書や電話で医療機関から情報を受ける等で連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	不穏時の相談、体調不良時の相談や助言があり、安心して介護の支援ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には、積極的にかかわり支援をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今回は重度化や終末期の入居者はいないがニーズがあれば積極的に取り組む予定である。3年前の経験をいかし・・・	看取り等については契約時に入居者や家族の意向を確認し、家族等の希望があれば受入れる方針としている。入居者の状態に変化が見られる場合は、その都度医療機関と連携を取り話し合い対応を検討している。職員はケアの質向上の研修機会がなく、看取りケアの経験に留まっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の状態は、日頃の観察力が活かされるので日々の観察を怠らないように指導している。応急処置や初期対応は今後、訪問診療の医療機関に相談をし勉強会の場を設ける。早急に。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施するとともに、昨年に引き続き避難訓練に参加しくださる地域の方がみわかりました。	訓練は年2回同法人複合施設と合同で、消防署協力で昼夜を想定して避難訓練を実施し、地域住民も参加を得ている。訓練では消火器の設置場所の指摘を受け変更し、また、今年はスプリンクラーを設置し施設内の防災設備を整えている。備蓄については今後検討を重ね、取組むとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	慣れ合いになり、ついつい、怒ったり、叱ったりする職員がいると、ミーティングで全体に注意をするようにしている。	入居者の生活歴等から、一人ひとりの出来る事、得意な事を把握し、ゴミ出しや植物への水やり、包丁研ぎ等を支援している。管理者は、職員研修や日頃のケアの中で、入居者への言葉かけや目線、子供扱いしないよう職員へ伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴はもちろん、本人の希望を聞き、服装は選んでもらう。喫煙も自由におこなえる。テレビやDVD鑑賞の希望をきいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ドライブや外出が好きではない利用者の対応や好きな時間に部屋でテレビをみたり、午後のレク参加の強制はしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居当時のひげを今もそのままにしているし髪の毛の長い利用者もそのままの長い髪を保ちつつ、髪を結ったり、三つ編みをするとう笑顔がみられたり、家族と美容室でパーマをかけたりする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ほとんどの入居者ができること、食事の準備や片付けにかかわっている。	食事は3食、事業所内の台所で職員と入居者が一緒に下ごしらえや調理をしている。入居者は下膳や食器洗い、テーブル拭き等、一人ひとりが出来ることに参加している。職員も一緒に食卓を囲み、次回のメニューを入居者と相談しながら同じ食事を食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日平均1000cc前後としているが、水分がなかなか取れない方や多すぎる方(2000cc要求する方)にも、無理強いすることなく対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ、誘導し口腔内の清潔保持を行うとともに、口腔体操を昼食前に毎日おこなっている。		

沖縄県(グループホーム浦西)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所後にリハビリパンツをはいていた利用者2名(尿意がある)を綿パンツに変えた。その中のお一人がパットも必要なく、失敗がほとんどみられなくなった。	排泄チャック票を活用し、入居者一人ひとりのサインを見逃さず排泄パターンを把握することで、事前の声かけトイレや誘導にて自立に向けての取り組みを支援している。排泄介助時のプライバシーに配慮し、異性で介助する場合は本人に理解を得ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	「便秘をしたら、まず、カンダバー、フーチバー、水分、運動、最後に薬」を合言葉にしています。入居者の部屋に便の写真をトイレに張り何番が出たかを本人と一緒に確認しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前、午後と入居者と職員のタイミングをみながらどんな時間帯にも対応できるようにしている。(休憩時間に重なると待ってもらうこともある)	入浴は、入居者一人ひとりの希望に沿って対応している。入浴前の足浴に取組み、体を温めてから入浴に繋がるよう支援している。脱衣所に冬場はストーブを設置、夏は窓の開閉を調整することで室温を管理している。入浴を拒む方には、時間や職員を変えて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝の遅い方や昼寝する方、しない方とその方なりのペースで過ごしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日頃から薬の説明書をみるようにし、病名や薬の効用や副作用などを理解するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理が好きな方、煙草が好きな方、芝居が好きな方、それぞれにそれぞれの役割がある。最近、男性の方が包丁研ぎができることことを発見しました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出としてごみ出しや、花壇の水やり、買い物、故郷訪問や、外食などにでかけている。	事業所近くの花壇を散歩コースにして車いすの方も一緒に出かけ、時には花を頂き持帰っている。近隣のスーパーへ食材の買出しに出かけたり、ドライブでは、瀬長島や奥武島等に天ぷらを食べに行く等の支援に取り組んでいる。また、家族と定期的に出かけ外食を楽しむ入居者もいる。	

沖縄県(グループホーム浦西)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者が所持金がないが買い物などの時はレジでのやり取りをできるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	北大東島に嫁いだ職員からの便りがあったので、入居者ともども返事を送った。また、電話をしたいと希望のある入居者がご主人や娘さんへ電話をかけるなど本人の希望をきいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やテーブルには、散歩がてら道端の植物など飾るようにしている。北風の強い共同トイレと脱衣所近くの窓からの風を特に意識し温度管理をしている。	事業所の入口にはリースを掛け、フロアには、クリスマスツリーを飾る等で季節を表している。各テーブルには散歩の際に頂いた花を飾る等、居心地良く過ごせるよう工夫している。居間は入居者の活動場所の為、特に冬はストーブを設置する等で、温度調節に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間でほとんど過ごすことがなかったかたが、ソファに座り、テレビでの芝居観賞をすることができるようになった。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に観葉植物を置いている方、テレビを置いている方、お孫さんの描いた似顔絵を張るなど、本人や家族の希望に添っている。	居室は使い慣れたテレビや時計、テーブル、ダンス、お気に入りの帽子を持ち込み、壁には家族の写真や作品を飾っている。居室内を職員と一緒に掃き掃除する入居者もいる。居室は洋間と畳間があり、入居者の在宅時の生活スタイルに合わせ、居心地良く過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアに本人の好きな色のリースを飾ったり、お孫さんが描いた似顔絵を張るなど、また、毎食の茶碗洗いのために、流し台をかたづけし安全を確保しつつ能力を活かしているとおもわれる。ベランダの鉢植えの水遣りが安全におこなわれるようにペットボトルを用意するなどの工夫をしている。		